

9  
September

# 俳句

( 2 0 2 3 )





た べ も の 俳 句	モ ー ロ ク 俳 句	歳 時 記 俳 句
10 ＼	5 ＼	1 ＼

## 目次

<長月>

日増しに夜が長くなるので「夜長月」。  
それが「長月」になったといわれています。

季節：仲秋（ちゅうしゅう） ※白露から寒露の  
前日まで。

（宇佐美保幸）メール・yasuyuki.usami@gmail.com

毎日の俳句は次のブログに  
巣鴨とげぬき徒然俳句

<https://blog-haiku.777usami.com>

二百十日句集積まれし枕元  
風見鶏空ばかり見て九月かな

藤袴変わらぬものをいつくしむ  
ふじばかま薄化粧して蝶を呼ぶ

威嚇する身の濡れてゐる蠮螋や  
蠮螋やお腹膨らみたじろがず  
寄らば斬る親子蠮螋鎌をふる

死を知らずただひたむきに蓼の花  
驚いて殿様ばった空高く  
元氣ならよし飛蝗飛ぶ吾ころぶ

主張せず訴えもせず萩の花  
切られても芽吹き力萩の花  
揺れる萩静かな時間野草園  
見られようなどと思わぬ萩の花



先んじて染井霊園萩の花

鬼やんま鬼と呼ばれて差別され  
鬼やんま歌舞伎睨みをきかしたり  
霊園の卒塔婆の梵字鬼やんま

あの世には少しの余裕男郎花  
皇居でも稲刈りありき神事あり

全身で訴え叫ぶ鶏頭花

鶏頭や毀滅の刃燃えるごと

鶏頭の花を探検蟻がいて

鶏頭花やはりいずれに色褪せし

焼却炉携帯鉄塔鶏頭花

鶏頭花全身全霊鶏頭花

プロポーズ無関心かな葉鶏頭  
中国のプロパガンダか葉鶏頭



パワハラはどこ行く風と葉鶏頭  
記憶力良いか悪いか葉鶏頭  
つぶやけば常に炎上葉鶏頭

育ててる訳ではないが虫の秋  
はかどってブログ原稿虫の秋  
骨密度すかすかとなる昼の虫  
ギーチョンと美声にあらずきりぎりす  
服薬のだんだん増えて虫の闇

虫の声歌える子供絶滅し  
草に満ち夜にも満つる虫の声  
虫の声虫の心を思いやり  
長雨や耐えて耐え抜く虫の声

良夜かなブログ原稿進捗し  
ジャズ聴いて余韻で眠る良夜かな  
良夜かな分厚き音の四重奏



祈る人祈らぬ人に良夜かな  
アレクサの選んだ曲の良夜かな

役者なら何度死んでも星月夜  
見えましか見えねばならぬ星月夜  
星月夜すぐにこのままピンコロリ  
星月夜男が鼻毛を切りにけり  
星月夜脳みそ空になる時間  
潜水艦ときには浮上星月夜  
あの世から絵葉書届く星月夜  
星月夜スマホ忘れて放浪す

終活も予防的措置杜鵑草  
庭に咲く疲れて飽きて杜鵑草

今昔の兄弟しのび紫苑かな  
どこまでも突き抜けて咲く紫苑かな



搜し物思わぬところ 瀬祭忌  
草に華吾にパソコン 瀬祭忌

コスモスの色に染まりて蝶が飛ぶ  
群れて咲き孤独三昧 秋桜や  
欧州に右翼台頭 秋桜  
コスモスや背伸びが過ぎて風に負け

秋の雨前線東西伸びにけり  
人生も移り変わりて秋の雨  
彼方から四方八方 秋の雨

秋薊あさぎまだらは帰路につく  
赤映える雨散りばめて秋の薔薇  
語り合え野菊ならこそ通じ合う  
野にあればそれが幸せ野菊咲く



花と花何を競いて曼珠沙華  
好き嫌いな所も多く彼岸花  
曼珠沙華数を競いて資本主義

池袋塩辛蜻蛉中華街  
空を縫いすいすいと蜻蛉かな  
蜻蛉飛ぶ日本列島狭すぎる

露の玉落ちる覚悟はできている

温暖化やはり重宝秋簾  
温暖化秋の兆しも九月尽  
温暖化日本の秋も落ち着かず

蓑虫や存在軽く何を待つ  
演歌かな小節蓑虫揺れてをり

見えて来し老いの行き先九月尽



血圧は高止まりして九月尽  
支持率はますます不安九月尽





モーロク俳句

モーロクし孤独深まる九月かな  
九月にも真夏日続きモーロクす  
はや9月雲のスピード増しにけり

あともどり出来ぬモーロク萩の風  
モーロクしむなしさもつれ萩の宵  
モーロクし風の声聴く萩の声

モーロクしどこか疲るる野分あと  
モーロクしなまけごころや蓼の花  
モーロクし身支度ながし蓼の花  
モーロクしされどひたむき蓼の花

モーロクし辛抱極み吾亦紅  
モーロクしモノトーンなる秋の蝉



住む家と合わせモロク秋海棠  
モロクし繕い多くきりぎりす  
きりぎりす年年歳歳モロクす  
モロクしこころの奥のきりぎりす

モロクし耳鳴り中へコオロギや  
ちちろの夜モロク進み無精髭

モロクし満月ゆがみ吾ゆがむ  
満月に透視されたりモロクし  
満月もかすかに揺れてモロクす  
モロクしどの満月もひずみけり  
満月や筋肉緩むモロクし  
満月の重さを曳いてモロクす  
モロクし満月獲つて冥土道  
モロクし痛し痒しと満月や



モーロクし生きて紫苑の風の中  
モーロクし引きこもる窓紫苑かな

モーロクし男の美学 鰯雲

モーロクしこころ連れ去り 鰯雲

モーロクし背中淋しく 鰯雲

モーロクし追伸ごとき 鰯雲

鰯雲崩れてほろぶモーロクす

モーロクし風が離れて秋の蝶

葡萄喰ふモーロクすれば種なしを

モーロクし無いもの強請り名月や

名月やあたまからつぽモーロクし

過去未来モーロク進み星月夜

星月夜森を徘徊モーロクし

星月夜知らぬ存ぜぬモーロクし



モーロクし死への想いの星月夜

案山子かな眉をへの字にモーロクす  
昼の月これは妄想モーロクし

月出ても月出なくともモーロクす  
月は月モーロクすれど月は月

赤赤赤モーロクあの世曼珠沙華  
モーロクしされど執念曼珠沙華  
モーロクし夢また夢の曼珠沙華

モーロクし新蕎麦すすりいのちなが  
モーロクし引きずり込まれ大花野

何故生きるモーロクすれど馬肥ゆる  
鶏頭もモーロクすれば枯れわたる



モーロクし続かぬ強気あきざくら  
モーロクしコスモス揺れて脳揺れる  
モーロクし秋桜畑あの世かな  
コスモスの波に船酔いモーロクし

モーロクし無精髭にて菊日和  
モーロクし土に還る日鬼あざみ

モーロクし手間暇かかる秋日和  
モーロクしはなびら欠けて野菊かな  
モーロクし鶏頭倦めり九月尽



たべもの俳句

味噌汁の豆腐崩れて厄日かな  
秋明菊鎌倉でカレー食べ

フライパン秋刀魚蒲焼き并に  
一粒の重さ確かめ葡萄食ふ

春雨の秋の和え物青野菜  
酢豚かな黒豚黒酢居待月

シヤキシヤキ長いも皮ごとごま油煮に  
長芋をクミンであえてクミン漬け

なし狩りは朝一番にもぎたてを

肉まみれ麻婆豆腐や名月に



生姜市生姜の匂い風に乗せ  
月を見るポテトチップスウイスキー

秋茄子を幾年続く糠漬けに  
秋なすにうまみの元を少し降り  
秋なすをミョウガ風味に味噌炒め  
紫紺もて秋茄子主役器あり

作りおくサンドイッチや台風圏  
ウイスキー試飲いろいろ良夜かな  
良夜かなやはり岡山大吟醸

駅弁を夕ご飯とする夕月夜  
秋暑しはんぺんの磯辺焼き  
秋暑しされど誘惑中華井

オーブンでピザを温め獺祭忌



いろいろのきのこどっさりきのこ汁  
茸汁夕餉に添えて頬ゆるむ  
ラ・フランス朝の食卓華やかに

椎茸を網焼き醤油ひとたらし  
しいたけをピリ辛煮して常備菜  
甘辛くきのこつくだ煮作り置き

秋鮭をキャベツと合わせ酒蒸しに

朝や秋卵を混ぜる納豆に  
長芋をバター醤油でステーキに

ノンアルでほろ酔い気分蚯蚓鳴く  
秋の朝生からすみで朝食を

秋かつおピリ辛だれにネギ油  
岡山の酒一匹のちちろ虫





